

デザインの面白さを体感できる「デザインあ」展の会場。井当の中身を素材で表した作品（右手前）などユニークな展示が並ぶ（熊本市中央区）



身近なデザイン 体感

現代美術館「あ」展きよう開幕

身の回りのものをデザイン的な視点で捉え、その面白さに触れる「デザインあ」展が30日、熊本市中央区上通町の市現代美術館で開幕する。ユニークな切り口の立体や平面、

HK・Eテレで放映中の子ども向け人気番組。展覧会は「デザイン的な思考を育む」とのコンセプトで、18個人・団体の39作品を「観察」「体感」「概念」の部屋に分けて紹介する。総合監督はグラフィックデザイナーの佐藤卓氏。29日、記者発表があった。

立体「アン・ドゥ・トロワ」は人の動作を3段階で切り取り、何をしているのかを想像させる作品。数字や文字を抜いたカレンダーやデジタル時計などの「枠」を並べた展示は、時間の把握や管理の仕方を再認識させる。

「体感」の部屋では、音楽を流しながら四方の壁に映像を投影。果物や文具がバラバラになる様子を観察する人

気コーナー「解散！」などが大画面で楽しめる。

関連イベントのリレートークは7月5日、8月2日の毎週金曜午後6時〜7時半、同館カフェで。崇城大芸術学部デザイン学科教授の飯田晴彦、岩上孝二、原田和典の3氏が交代で語る。（魚住有佳）

「デザインあ」はN